

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び21世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各学科において修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した人に学士（文学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程編成の方針

文学部は、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材、情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成するために、各学科・コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成しています。1・2年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに各学問領域の基礎的専門科目を配置し、3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成しています。

そのため、各学科・コースが挙げる体系的、段階性、個別化（進路への対応）をもとにカリキュラムを編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

文学部では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
 2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、情報コミュニケーションのあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
 3. 専門的知識の習得に意欲を持ち、習得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。
- グローバルリーダーコースでは、さらに別に定める同コースのアドミッション・ポリシーに示す人材を求めます。

◆入学者選抜の基本方針

文学部では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜Ⅰ、総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）及び私費外国人留学生選抜を実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・ 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰでは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、英語による面接、ペーパーインタビュー及び論述審査を課し、表現力、英語運用力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、思考力及び理解力を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

○ 人間科学コース

総合人間学科人間科学コースは、学士課程教育において、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力（哲学）や実証的判断力（心理学）を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・ 論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・ 外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

○ 社会人間学コース

総合人間学科社会人間学コースは、学士課程教育において「社会的存在としての人間」という認識から出発し、現代における人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・ 論理的思考や学外での調査などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・ 外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

○ 地域科学コース

総合人間学科地域科学コースは、学士課程教育において「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・ 論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・ 外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

◇グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に人間科学コース、社会人間学コース、地域科学コースのいずれかに所属）は、学生が選択した上述の各コースに記載の学修成果・資質・能力に加え、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動する人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、所属するコースの方針に示された資質・能力を身に付けた者に修了証書を授与します。

学修成果

豊かな教養

- ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

確かな専門性

○ 人間科学コース

- ・人間科学（哲学・心理学）の基本的理念・概念について説明することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）における研究手法を使用することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○ 社会人間学コース

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）における研究手法を使用することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○ 地域科学コース

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における研究手法を使用することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

○ 人間科学コース

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

○ 社会人間学コース

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

○ 地域科学コース

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における知見を用いて現実の課題を見出し解決法を提案することができる。

社会的な実践力

○ 人間科学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○ 社会人間学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し、他者との対話や協力をつうじて課題解決に貢献することができる。

○ 地域科学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

グローバルな視野

- ・ 外国語の文献を読解することができる。
- ・ 異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用力

- ・ インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

○ 人間科学コース

- ・ 相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

○ 社会人間学コース

- ・ 相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

○ 地域科学コース

- ・ 相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・ 常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

○ 人間科学コース

①教育課程編成の方針

体系性：人間科学（哲学・心理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には人間科学（哲学・心理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 社会人間学コース

①教育課程編成の方針

体系性：社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学や就職など進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習や実習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 地域科学コース

①教育課程編成の方針

体系性：地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

◇ グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に人間科学コース、社会人間学コース、地域科学コースのいずれかに所属）は、上述に加え、グローバルリーダーに必要な能力及び専門基礎力を身に付けるための「グローバル学修プログラム」において Multidisciplinary Studies 等の履修を義務付けるとともに、グローバルに活躍できる資質・能力を身に付けるための「グローバル課外教育プログラム」において、海外留学、インターンシップ等の履修を求めています。加えて、GLC Foundation Seminar や合宿研修、海外インターンシップや海外短期留学等によって、批判的思考力、多様性への理解、リーダーシップ等を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動できる人材に育つように教育課程を編成しています。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

総合人間学科では、文学部が求める学生像を踏まえ次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに現代社会、倫理、地理、国語、外国語の学力に優れた人。
2. 人間や人間関係への関心と探求心を持ち、人間に関わる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。
3. 現代社会のかかえる諸問題や日本及び世界各地の社会や文化に関心を持ち、それらを自分で分析する力をつけたいと考えている人。
4. 地域社会や地域文化に関心を持ち、それらがかかえる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。

◆入学者選抜の基本方針

総合人間学科では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜Ⅰ及び私費外国人留学生選抜を実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・ 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰでは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

○ 歴史資料学コース

歴史学科歴史資料学コースは、学士課程教育において、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・ 歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・ 異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

○ 世界システム史学コース

歴史学科世界システム史学コースは、学士課程教育において、史料の総合的分析力に依拠した論理的実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語（欧米諸語、漢文、中国語等）運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・ 歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・ 異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

◇グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に歴史資料学コースあるいは世界システム史学コースに所属）は、学生が選択した上述の各コースに記載の学修成果・資質・能力に加え、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動する人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、所属するコースの方針に示された資質・能力を身に付けた者に修了証書を授与します。

学修成果

豊かな教養

○ 歴史資料学コース

- ・ 歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
- ・ 自然・生命に関する基本的な知識及び関心を持っている。

○ 世界システム史学コース

- ・ 歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
- ・ 自然・生命に関することに関心と基本的な理解・知識を持っている。

確かな専門性

○ 歴史資料学コース

- ・ 歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・ 日本史学・考古学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・ 日本史学専攻者については古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・ 考古学専攻者については遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・ 日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・ 日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。
- ・ 日本史学・考古学に関する確かな専門性に基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力のある表現を用いて学術的文章を作成することができる。

○ 世界システム史学コース

- ・ 歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）における研究手法を使用することができる。
- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）に関連した抽象度の高い学術論文を読解することができる。
- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）研究に必要な外国語文献（英語、漢籍、中国語等）を読解できる。

創造的な知性

○ 歴史資料学コース

- ・ 歴史学全般及び日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

○ 世界システム史学コース

- ・ 歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

社会的な実践力

○ 歴史資料学コース

- ・ 柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・ 文化財の保護・活用及び博物館活動に寄与することができる。

○ 世界システム史学コース

- ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心を持つことができる。

グローバルな視野

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

情報通信技術の活用力

○ 歴史資料学コース

- ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

○ 世界システム史学コース

- ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

○ 歴史資料学コース

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。

○ 世界システム史学コース

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業（議論）によって、問題解決を図ることができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

○ 歴史資料学コース

①教育課程編成の方針

体系性：日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート

ート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 世界システム史学コース

①教育課程編成の方針

体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保证するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

◇ グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に歴史資料学コースあるいは世界システム史学コースに所属）は、上述に加え、グローバルリーダーに必要な能力及び専門基礎力を身に付けるための「グローバル学修プログラム」において Multidisciplinary Studies 等の履修を義務付けるとともに、グローバルに活躍できる資質・能力を身に付けるための「グローバル課外教育プログラム」において、海外留学、インターンシップ等の履修を求めています。加えて、GLC Foundation Seminar や合宿研修、海外インターンシップや海外短期留学等によって、批判的思考力、多様性への理解、リーダーシップ等を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動できる人材に育つように教育課程を編成しています。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

歴史学科では、文学部が求める学生像を踏まえ次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに日本史、世界史、現代社会、国語、外国語の学力に優れた人。
2. 歴史を学ぶことを通じて、人間や人間社会の本質と可能性を探究し、新しい時代と社会を切り開いていこうとする意欲を持った人。
3. 国際交流や国際協力等の実践的活動に関心を持ち、歴史という長期的視点から、異文化社会の本質を理解したいと考えている人。
4. 史料解読や遺跡発掘調査といった高度の技能を身に付け、より高い専門性をもって、文化財行政や歴史教育に携わりたいと考えている人。

◆入学者選抜の基本方針

歴史学科では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜Ⅰ、及び私費外国人留学生選抜を実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・ 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰでは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

○ 東アジア言語文学コース

文学科東アジア言語文学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力を活かして、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・ 東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・ 明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

○ 欧米言語文学コース

文学科欧米言語文学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力を素地としながら、英語・ドイツ語・フランス語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的概念・理論について説明できる。
- ・ 欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・ 明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

○ 多言語文化学コース

文学科多言語文化学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力をもとに、専門教育では異文化接触がもたらす文化変容、もしくは人類の言語文化及びその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文学、国際文化学の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学位（文学）を授与します。

- ・ 比較文学・比較文化、国際文化学の基本的概念・理論について説明できる。
- ・ 比較文学、国際文化学に関する知見を用いて、今日的課題を発見し、解決法を提案できる。
- ・ 明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

◇グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に東アジア言語文学コース、欧米言語文学コース、多言語文化学コースのいずれかに所属）は、学生が選択した上述の各コースに記載の学修成果・資質・能力に加え、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動する人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、所属するコースの方針に示された資質・能力を身に付けた者に修了証書を授与します。

学修成果

豊かな教養

- ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

○ 東アジア言語文学コース

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理念・概念について説明することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○ 欧米言語文学コース

- ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）における研究手法を使用することができる。
- ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○ 多言語文化学コース

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・比較文学・比較文化、国際文化学における研究手法を使用することができる。
- ・文学・文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

○ 東アジア言語文学コース

- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

○ 欧米言語文学コース

- ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）を応用して、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

○ 多言語文化学コース

- ・比較文学・比較文化、国際文化学を応用して、現実の課題を見出し、解決法を提案することができる。

社会的な実践力

○ 東アジア言語文学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○ 欧米言語文学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○ 多言語文化学コース

- ・ 柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・ 社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。

グローバルな視野

○ 東アジア言語文学コース

- ・ 外国語の文献を読解することができる。

○ 欧米言語文学コース

- ・ 外国語の文献を読解することができる。

○ 多言語文化学コース

- ・ 異文化理解や国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・ 複数の外国語による文献を読解することができる。
- ・ 外国語による基本的な対話や簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

情報通信技術の活用力（学科共通）

- ・ インターネットを活用し、情報の収集・分析やコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

○ 東アジア言語文学コース

- ・ 相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

○ 欧米言語文学コース

- ・ 相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

○ 多言語文化学コース

- ・ 相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・ 明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・ 常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

○ 東アジア言語文学コース

① 教育課程編成の方針

体系性：日本語日本文学及び中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には日本語日本文学及び中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 欧米言語文学コース

①教育課程編成の方針

体系性：欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 多言語文化学コース

① 教育課程編成の方針

体系性：比較文学及び国際文化学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3、4年次には比較文学、もしくは国際文化学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学或いは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

◇ グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時に東アジア言語文学コース、欧米言語文学コース、多言語文化学コースのいずれかに所属）は、上述に加え、グローバルリーダーに必要な能力及び専門基礎力を身に付けるための「グローバル学修プログラム」において Multidisciplinary Studies 等の履修を義務付けるとともに、グローバルに活躍できる資質・能力を身に付けるための「グローバル課外教育プログラム」において、海外留学、インターンシップ等の履修を求めています。加えて、GLC Foundation Seminar や合宿研修、海外インターンシップや海外短期留学等によって、批判的思考力、多様性への理解、リーダーシップ等を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動できる人材に育つように教育課程を編成しています。

入学受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

文学科では、文学部が求める学生像を踏まえ次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに国語や外国語の学力に優れた人。
2. 日本を含むいろいろな国の言語、文学、文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことを通して人類の文化や現代社会に対する理解を深めたい人。
3. 英語をはじめとする外国語の運用能力と異文化を正しく理解する能力を身に付け、国際的な舞台で活動したい人。
4. 言語、文学、文化に対する幅広い知識と的確な分析・表現能力を活かし、教育・研究に従事したい人。

◆入学選抜の基本方針

文学科では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜Ⅰ及び私費外国人留学生選抜を実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・ 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰでは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学選抜要項、学生

募集要項を参照)

- ・ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。(詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照)

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

○ コミュニケーション情報学コース

コミュニケーション情報学コースは、学士課程教育において、高次のコミュニケーション能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、情報を読み解き、発信できる能力を高め、グローバル化・情報化が進む現代社会において先導的役割を担いうる自発性と創造性に優れた人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を設定し、具体的な解決策を提案できる。
- ・ 異文化理解や異文化交流・国際交流に関心を持ち、英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。
- ・ 最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。

○ 現代文化資源学コース

現代文化資源学コースは、学士課程教育において、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・分析・整理する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源の持つ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・ 地域固有の言語や特色ある文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。
- ・ 異文化交流・国際交流に関心を持ち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について英語で伝えることができる。
- ・ 情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。

◇グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3年進級時にコミュニケーション情報学コースあるいは現代文化資源学コースに所属）は、学生が選択した上述の各コースに記載の学修成果・資質・能力に加え、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動する人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、所属するコースの方針に示された資質・能力を身に付けた者に修了証書を授与します。

学修成果

豊かな教養

- ・ 人や社会、自然や生命に対する幅広くかつ深い関心を持っている。

確かな専門性

○ コミュニケーション情報学コース

- ・ コミュニケーション情報学の基本的な理論及び概念を説明できる。

- ・コミュニケーション情報学における研究手法を使用することができる。
- ・コミュニケーション情報学の最新動向について自律的に学ぶことができる。
- ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。
- ・文献や記事を読んで内容を理解し、論点を論理的かつ簡潔に要約できる。
- ・調査の企画、調査対象者との交渉、実行、報告書作成など一連の作業ができる。
- ・相手に分かり易く、平易な論理で、相手の関心に沿った話し方で情報や意見を伝えることができる。

○ 現代文化資源学コース

- ・現代文化資源学の基本的な理論及び概念を説明できる。
- ・現代文化資源学における研究手法を使用することができる。
- ・現代文化資源学の最新動向について自律的に学ぶことができる。
- ・現代文化資源に関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。
- ・地域固有の言語や特色ある文化について関心を持ち、これを説明する資料を収集し、適切な方法で整理して記録することができる。
- ・地域固有の言語や特色ある文化について、その持つ特徴をより広い視点から説明することができる。
- ・言語や文化についての資料を収集する目的をわかりやすく説明した上で、協力者を探し、フィールドワーク調査を実施することができる。

創造的な知性

○ コミュニケーション情報学コース

- ・複眼的・多面的な視点で柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討できる。
- ・社会で生じる諸問題に関する理解と関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。

○ 現代文化資源学コース

- ・固有の文化に関する諸事象を尊重するだけでなく、次の世代が活用しうる文化資源として捉え直すことができる。

社会的な実践力

○ コミュニケーション情報学コース

- ・自主的に社会や組織に積極的に参加し、自分の位置を見つけ、貢献できる。
- ・共通の課題に対してグループで取り組み、互いの意見を尊重しながら、問題を解決できる。
- ・明晰な論理と説得力のある表現を用いて、ビジネス現場で通用する文章を作成できる。

○ 現代文化資源学コース

- ・地域固有の文化の現状とその地域の事情を把握した上で、地域固有の文化を将来どのように活用できるかをわかりやすく提案することができる。
- ・多様な価値の存在を認識し、価値観の違いが生み出す問題をどのように回避できるかを提案することができる。

グローバルな視野

○ コミュニケーション情報学コース

- ・日本文化に対する理解を深めるとともに、異文化理解や異文化交流、国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・国際社会で生じる諸問題に関する基本的な理解と関心を持っている。
- ・英語の文献やニュース、記事を読解し、情報の収集・分析に足る基本的な英語運用能力がある。
- ・英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。

○ 現代文化資源学コース

- ・ 地域固有の言語や特色ある文化がどのように資源として活用されているかという観点から、諸外国の事情に関心を持ち、情報を収集することができる。
- ・ 日本の地域固有の言語や特色ある文化について、文化的背景の異なる人々がどのような関心を持っているかに注意を払い、適切に情報を発信することができる。

情報通信技術の活用力

○ コミュニケーション情報学コース

- ・ ビジネス現場で要求されるレベルで、情報通信機器及びソフトを使いこなすことができる。
- ・ 最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。
- ・ 最新の情報メディア技術を活用し、文字に加え音声・映像による情報の作成、発信ができる。

○ 現代文化資源学コース

- ・ デジタルアーカイブの概念について理解し、さまざまなデジタルアーカイブを活用できる。
- ・ デジタルアーカイブの仕組みについて理解し、目的に応じたデジタルアーカイブを立案できる。

汎用的な知力

- ・ ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。
- ・ 向上心を常に持ち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

○ コミュニケーション情報学コース

①教育課程編成の方針

体系性：コミュニケーション情報学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ 現代文化資源学コース

①教育課程編成の方針

体系性：現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修

を保証するよう編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

○ グローバルリーダーコース

グローバルリーダーコース（本学科については、3 年進級時にコミュニケーション情報学コースあるいは現代文化資源学コースに所属）は、上述に加え、グローバルリーダーに必要な能力及び専門基礎力を身に付けるための「グローバル学修プログラム」において Multidisciplinary Studies 等の履修を義務付けるとともに、グローバルに活躍できる資質・能力を身に付けるための「グローバル課外教育プログラム」において、海外留学、インターンシップ等の履修を求めています。加えて、GLC Foundation Seminar や合宿研修、海外インターンシップや海外短期留学等によって、批判的思考力、多様性への理解、リーダーシップ等を身に付け、国内外の課題をグローバルな視点で考え行動できる人材に育つように教育課程を編成しています。

入学受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

コミュニケーション情報学科では、文学部の求める学生像を踏まえ次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに英語や情報の学力に優れた人。そうした能力やスキルを高め、卒業後に地域社会や国際社会に貢献することへの関心が高い人。
2. 理論だけでなく、自らの体験を通して、新聞・放送・広告といったマスメディア、インターネットに代表される情報技術のしくみと運用など、コミュニケーションと情報に関するさまざまな事象について考えたい人。
3. オーラルコミュニケーションを中心に、英語によるディスカッションやディベート等に対応できる高いレベルの実践的英語運用能力を習得したい人。

◆入学選抜の基本方針

コミュニケーション情報学科では、アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜Ⅰ、及び私費外国人留学生選抜を実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・ 一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価すると

ともに、個別学力検査では、小論文、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）

- ・ 一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価します。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰでは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉強意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）
- ・ 私費外国人留学生選抜では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉強意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、学生募集要項を参照）